

カーフェリーの導入 「将来的に取組」でよいのか

佐渡汽船が双胴船「あかね」を運航している直江津小木航路で、同社は経営状況が厳しいとして「あかね」を売却し、新たにジェットフォイルを導入したいとしています。しかし、ジェットフォイルは乗客専用であり荷物や車両の輸送ができないことから、「あかね」導入の際に市民の税金で補助金を交付した上越市や佐渡市は、この方針に同意していませんでした。

ところが、20日行われた市議会文教経済委員会(委員長は上野公悦議員)で、市当局は「可能な限り早い時期にカーフェリーを導入できるよう取り組むこと」などを条件に「あかね」の売却交渉着手について県などと協議したいなどと述べ、急遽態度を変更したことが明らかになりました。

このことに対して各委員からは、「県との協議はどの程度進んでいるのか」「仮にあかね購入の際の補助金が返還されたら、市としての発言力はどうなるのか」等の質問が出されましたが、市当局は「県とは一定の協議をしており、覚悟を持ってやっている」「航路がある限り、そのサービス基準維持への発言力はある。協議の結果は文書で確認し、それを基にしていく」と答えました。

上野委員長は、「佐渡市とも協議しながら貨物輸送の維持について詰めていくべきではないか」「県の役割が重要である。資金援助を含めた県の支援策を強く求めることが必要ではないか」と鋭く追及しました。



新潟両津航路から直江津小木航路に転換させるとしているジェットフォイル(佐渡汽船のHPより)

日本共産党上越市議員団ニュース
No.679 2020年10月25日

連 橋爪 法一 090-5392-1961(吉川区代石)
絡 上野 公悦 090-7260-9407(頸城区中柳町)
先 平良木 哲也 090-1808-6919(上中田(金谷区))

それに対して、当局は「県には強く言っていきたい」「佐渡汽船株式会社は極めてギリギリの経営状況に追い込まれており、その中での存続を考える中での判断だと思う」と答えました。

上越保健所管内感染症発生状況
(10月10日現在)
PCR検査実施件数 1,616件
感染症患者数 14人(上越市内13人)
陽性率 0.87%

「公の施設の再配置」の名で 温浴施設中心に次々廃止か

各地域協議会で個別に「説明」し理解求める

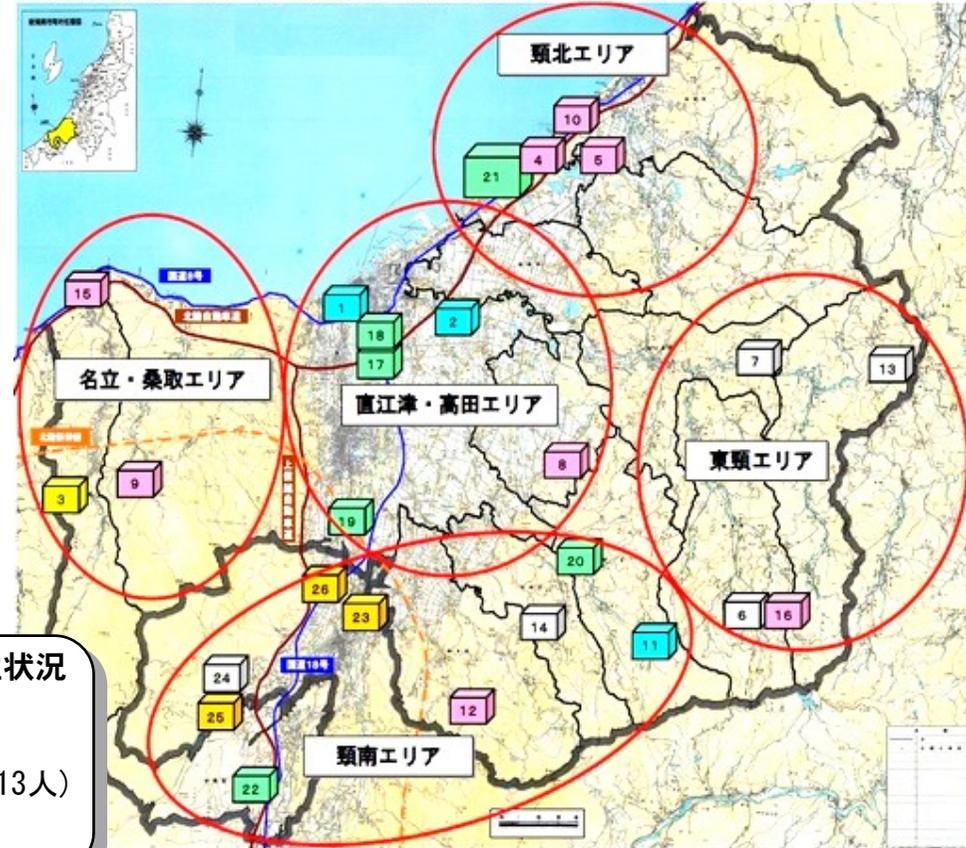
上越市は市内の公共施設について、廃止や機能の集約を行う必要があるとして、今年度末までに「再配置計画」を作るとしています。

その理由としては、①市の財政は、歳入が歳入を上回るため、財源不足を基金の取崩しで補う状況が続く見込みであること、②多くの施設の老朽化に伴う維持管理経費と更新費用の増加が見込まれること(今後40年間で約4千億円)、③合併前の各市町村で進めた施設整備により多くの類似施設を保有していることを挙げています。

計画作成にあたっては、事前に各地で個別に了解を得る狙いからか、各地域協議会で個別に説明しています。

地域協議会によっては、かなり丁寧な資料を提示しながらの説明になっているようですが、地域をまたいでの利用もありません。地域協議会での説明だけでは市民の理解を得ることはならないと指摘する声が寄せられています。

上越市周辺における主な温浴・宿泊施設の位置図(令和2年3月末現在)



一部の地域協議会に出された資料より

また、再配置(廃止や用途の変更、民間団体への譲渡など)の対象になっている施設は温浴施設が多く、市民の健康増進の取組への疑問も出されています。公共施設は、どれも地域にとってはかけがえのない施設であり、地域の拠点になっているものも少なくありません。そうした地元の思いを汲み、住民サービスの低下にならないような取組が必要です。